

# 女川町ふるさと応援寄附金応援メッセージ

皆様からお寄せいただいた応援メッセージの一部をご紹介します。  
(H25年4月からH26年3月分まで)

女川町の出身です。一日も早く、美しい女川の新しい姿が具体化され、みなさんに心からの笑顔が戻ることを、遠く離れた地からお祈りしております。(神奈川県・S様)

昨年何度か訪れましたが、そのたびに町が変化していると感じます。あらゆることに日々奮闘されている方々のご苦勞に思いを致しつつ、またそちらに遊びに行く機会を楽しみにしております。(東京都・T様)

女川町出身です。今は離れたところに住んでいますが、微力でもご協力できればと思い申し込みました。活気ある街に戻りますように。(埼玉県・山田様)

女川中学校女子バスケットボール部のみなさんへ  
東北大会優勝、全国大会出場おめでとうございます。全国大会での活躍を期待しています。(宮城県・K様)

女川町に住む親せきの高校生の女の子が言っていました。「私は女川が大好き」と。若い人たちが、今後も女川を愛し続けてくれるような街であり続けてください。  
(東京都・H様)

皆さまのお力で街の復興が少しずつ進んでいるように新聞等で報じられています。長い時間がかかるでしょうがよろしく願いいたします。(北海道・三田様)

女川町には伺ったことはありませんが、着実な復興をお祈りしております。  
東京に居ては想像もつかぬご苦勞の連続でしょうが頑張ってください。  
(東京都・I様)

女川は父の故郷です。小学生の頃は夏休みになると毎年滞在していました。  
昨年、女川を訪ね変わり果てた姿に啞然としました。少しでも早く昔のような港町に  
戻ってほしいです。いつまでも応援しています。頑張りましょう！(東京都・伊藤様)

ツール・ド・東北 2013 に参加して、28年ぶりに女川を訪れました。まだまだ復旧復興  
までの道のりは長いでしょうが頑張りましょう。(埼玉県・新井様)

女川町の皆様、被災された皆様、改めまして心よりお見舞い申し上げます。もうすぐ  
震災から3年が経ちます。今もなお、復興や復旧に多大なご尽力をされておられる  
のだろうと、言葉では言い表せられない感情を抱いております。昨今、ニュース  
では以前のように取り上げられなくなりましたが、これまで通り、毎日皆様の身を  
案じ、決して忘れることはございません。お一人おひとりに必ずや明るい光が降り  
注ぐことを祈念しております。(山口県・青木様)

24年の11月にバイクで走りました。自然災害の爪痕たる惨状を目の当たりにして愕  
然としました。本年は訪れることが出来ませんでした。復興を貴町の子供たちに託  
します。子供たちの未来に多少なりともお役にたてるのであれば幸甚の極みでござい  
ます。(東京都・福田様)

今は茨城県に住んでいますが、結婚前の本籍は女川で、心は今も宮城県民です。  
女川は幼い頃の祖父母との思い出の地、故郷の復興をいつも祈っております。  
(茨城県・田中様)

遠く離れているので、たびたび訪れることはできませんが、復興への気持ちは常に町民の皆様、職員の皆様とひとつでありたいと思っております。少しばかりではありますが、復興事業その他の町の事業の実施にお役立てください。(兵庫県・福嶋様)

がんばっぺ女川！負けねど宮城！おだづなよ津波！の精神で頑張ってください。応援しています。(大阪府・石田様)

ダイビングで利用させてもらっています。海がどんどん復興して、どんどん遊びに行けることを楽しみにしています。(宮城県・H様)

すでに 1000 日が過ぎましたが、未だ厳しい状況が続いていると存じます。常に将来を、そして次を担う子供たちのこと、先を見て頑張ってください。(埼玉県・D様)

これまで育った地元女川を離れることになりました。実家はなくなりますが地元は「女川」ですので、これからの復興を応援したいと思います。(宮城県・齋藤様)

高校を卒業し女川を離れて今年で 30 年になりますが、横浜の地からいつも女川のことを気にかけています。私の実家のあった場所は、現在盛土工事で近寄れませんが、将来は女川駅の駅舎が立つ場所です。女川町の人々が安心して充実した暮らしができるような町づくり、復興を祈っております。(神奈川県・K様)

横倒しになったままの建物、基礎だけになった住宅、実際目で見ないとわからないことが多いと実感しました。僅かですが子供たちのために役立ててください。(石川県・N様)

女川町で生活する皆様と復興に尽力される皆様に少しでも貢献したいと思い、寄附させていただきます。生まれ育った女川にはたくさんの思い出が詰まっています。女川町は私のふるさとです。今後も支援させていただきたいと存じます。(栃木県・S様)

まだまだの現状を見て、早く復興してほしいという想いと、震災が風化していかないことを願っております。金華山へは3年続けて参拝したいと思いますので、来年も再来年も女川から船に乗ります。(滋賀県・T様)

震災から1000日の時間が流れました。一日、一週間、一カ月が過ぎ去ろうとも、日々復旧復興に向き合っておられる女川の町と皆さまのことを忘れません。忘れてはいけないと思います。(奈良県・位坂様)

旅行へ行った際、みなさんの笑顔が見られて、こちらが元気を頂きました。これからも機会を見て、東北の美味しいものを食べに伺わせて頂きます。(神奈川県・S様)

同じ日本に生きている者同士、「明日は我が身」と心に刻み、助け合いの精神を常に持とうと思っています。愛知の空から応援しています。(愛知県・鈴木様)

震災のお見舞いを申し上げます。訪れたこともなく今までご縁もありませんが、少しでもお役立て頂ければと思います。早い復興復旧を願っています。(愛知県・小澤様)

自衛隊の仲間とお手伝いに行かせてもらってから3年を迎えました。退職後も何かお手伝いをと考えております。「がんばっぺ女川町」(愛媛県・佐々木様)